

機関番号 : 23901

研究種目 : 基盤研究 (C)

研究期間 : 2008~2010

課題番号 : 20520508

研究課題名 (和文) スペイン語話者への情報提供からみた多言語情報サービスの現状と課題

研究課題名 (英文) A study of multilingual information services: focusing on the case of the information offered to Spanish speakers

研究代表者

糸魚川 美樹 (ITOIGAWA MIKI)

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号 : 10405152

研究成果の概要 (和文) : 日本語運用能力が十分でないスペイン語話者に対する情報提供のあり方に関する基礎的研究として、各自治体の国際交流協会等で提供されているスペイン語による情報について調査し、その問題点を指摘した。また情報を保障するために近年注目されているコミュニティ通訳のなかでも医療通訳養成について、スペイン語教育の分野における教授者の役割を中心に考察を行った。非スペイン語圏からの移民が急増しているスペインのセビーリャ市において、非スペイン語話者の移民に対する言語サービスについてインタビュー調査を行った。

研究成果の概要 (英文) : The purpose of this study is to show clearly the multilingual information services presented by international associations in some local governments with an increasing number of foreign citizens without sufficient Japanese language ability. This study investigated information resources offered to Spanish speakers. In addition, from the field of the teaching of Spanish language for specific purposes, we studied about the teachers' roles in the training of medical interpreters. To compare with the Japanese situations, interviews were conducted in Seville on staffs of a number of organizations who are attending residents from non-Spanish speaking countries. It had been highlighted from previous studies that the number of immigrants in Spain has been increasing since 90's.

交付決定額

(金額単位 : 円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野 : 人文学

科研費の分科・細目 : 言語学・外国語教育

キーワード : スペイン語教育、多言語、専門分野外国語教育、情報提供、社会言語学、言語サービス、外国人

## 1. 研究開始当初の背景

1989年における「出入国管理および難民認定法」改定以降、日本における中南米出身定住者が増加している。特に愛知県は、2006年12月末日現在、ブラジル人の登録者数が75,316に達し、ブラジル出身者の登録数をもっとも多い県として知られている。また、ペルー人登録者数は7,933で神奈川県につき第2位、スペイン語圏出身者は1万人を超えている。改定前の88年では、ブラジル人の登録者数は248、ペルー人の登録者数は15であった。法改定から15年以上をへた現在、日本語運用能力が不十分な生活者に対し、多言語による情報を提供する必要性が認知されつつあるが、その量と質はなかなか問われないのが現状である。

日本と同様に、外国からの移民が急増したスペインでは、1998年外国籍登録者数637,085が、2007年には4,482,568になり、外国籍人口の割合が全人口の9.94%を占め、日本以上の外国籍人口の増加を経験している。移民の出身国は、ヨーロッパ、中南米、アフリカ、アジアと広く、使用言語も様々である。この急激な増加に対応するために、社会生活のさまざまな場面（教育、医療、労働、家庭、司法）において、「文化間仲介者」mediador interculturalの役割が注視されつつある。日本の「多文化ソーシャルワーカー」にあたる。神奈川県によれば、「多文化ソーシャルワーカー」とは、「当事者の言語や文化・習慣などの背景に詳しく、かつ、日本の文化や地域社会の制度・仕組みに精通している、もしくは日本人であるが多様な文化的背景を持つ外国籍県民に対応できる人材」と定義されている。

このような人材について、スペインと日本との違いは、日本では、自治体が「多文化ソーシャルワーカー」養成を担い、（無料で）養成講座開講しているのが一般的であるのに対し、スペインでは、高等教育機関において専門的知識と実践を積んだ資格者として、「文化間仲介者」が養成されている点である。

## 2. 研究の目的

日本における多文化・多言語社会への言語的対応、とくに愛知県を中心とした南米出身者集住地域におけるスペイン語圏出身者への情報提供のあり方についての分析、今後この分野で重要な人材となるであろう「多文化ソーシャルワーカー」に求められている資質や実際に提供しているサービスの質と量に

関する調査を通して、多言語情報サービスの現状を映し出す。また、外国語学部専門科目のシラバスにどのようにつなげていけるかを考察する。

多言語による情報提供の必要性が認知されつつある一方で、内容の正確さ、質が確認されないまま提供されているという問題がある。また、愛知県では、ブラジル人の圧倒的な多さに加え、「ポルトガル語とスペイン語は似ており、スペイン語話者にもポルトガル語が理解できる」という認識が多言語情報提供側に強くあり、スペイン語による情報提供が削減されたり、ポルトガル語通訳者がスペイン語話者対応も兼務するなどの傾向がみられる。

愛知県を中心とした中南米出身者の集住地域において、各自自治体や諸機関のスペイン語による情報提供サービス・相談サービスが、どのような知識・経験を積んだ担当者によってどのように行われているかを考察する。スペインにおける、「多文化仲介者」について、その養成課程と、資格取得者の活動する範囲や、それを支える制度を考察し、愛知県を中心とした外国人集住地域の多文化ソーシャルワーカーのそれと比較する。

愛知県における南米出身者は、ブラジル人が圧倒的に多く、ブラジル人コミュニティに関する調査考察は多いが、ペルー人を主とするスペイン語圏出身者のコミュニティに関する研究が少ない。また、日本におけるコミュニティ通訳（パブリック通訳）に関する研究は、英語圏が中心で、1990年代から急激に移民大国なったスペインのモデルは、日本の場合を考えるのに役立つと考えられる。

日本の通訳・翻訳の資格では、「通訳ガイド国家試験」があるのみで、医療現場、教育現場での通訳は、ボランティアに頼らざるを得ない状況であり、通訳者の能力が評価されない現状がある。制度としての通訳・翻訳のあり方を考える必要があり、外国語学部における、専門科目のシラバスや、外国語学部を卒業した後の大学院で実践的な通訳・翻訳過程のあり方を考察することにもつながる。

## 3. 研究の方法

愛知県を中心とした各自自治体の国際交流協会等のウェブサイト上に掲載されているスペイン語による情報、パンフレット等の紙媒体の情報を収集し、量的・質的分析を実施。医療分野ポルトガル語スペイン語講座（愛知県立大学）の受講者へのアンケート調査の実施と分析した。日本と同じように近年外国からの移民が急増したスペインについて、セビ

一リャ市における非スペイン語話者に対する言語支援のあり方について複数の公的機関の担当者に対するインタビュー調査を実施した。

#### 4. 研究成果

外国人登録者数のなかでブラジル出身者がもっとも多いことで知られる愛知県では、近年ポルトガル語による情報提供・コミュニケーション支援を行うことが、外国人住民への支援ととらえられる傾向がある。先行研究においても、ブラジル人への支援やブラジル人コミュニティに関するものが多く存在するなかで、スペイン語による支援・スペイン語圏出身者に対する支援に注目し、現状を調査・分析することにより、自治体がめざそうとする「多言語・多文化社会」がどのようなものなのかをより明確に描き出すことができるだろう。

本研究では、日本語運用能力が十分でないスペイン語話者への情報提供を考察するという目的で、各自治体や国際交流協会などがウェブや紙媒体で提供しているさまざまな情報の収集、分析を行った。

この分野の先行研究において、これまで各自治体や関係機関が類似した情報内容を翻訳し提供するという非効率性が問題になっていた。近年、様々な機関が作成した翻訳文書が特定の場所に収集され、個人や団体がそこから必要な情報を選択できるという形式や、それを応用して必要な情報をあらたに作成できる媒体が登場してきている。また、外国語学部を持つ大学や外国籍住民が集住する地域の大学と自治体とが連携し、より正確で専門性の高い情報提供の試みが進められているところもある。しかし一方で、公的機関による情報であっても情報の質が保障されていないものもいまだに存在している。

多言語情報提供の重要な役割を担うコミュニティ通訳（パブリック通訳）4分野のうち、とくに医療通訳、司法通訳について、通訳者の養成という点からそれぞれ考察した。前者については、必要とされる能力を身につけるための専門分野スペイン語教育と、これまで大学で行われてきた一般スペイン語教育とを比較し、専門分野スペイン語教育における教授者の役割について考察し発表した。また、日本社会におけるスペイン語使用の増加と大学における外国語科目選択の関係を考察すべく、スペイン語を選択している学生に対し学習の動機について共同でアンケートを行った。さらに、医療スペイン語通訳者が知っておくべき分野のスペイン語について調査し、スペイン語学習教材に反映させた。司法通訳については、スペイン語通訳付きの裁判を傍聴し、先行研究で論じられてきた通訳者に求められる資質と実際の通訳者のあ

り方について社会言語学的な視点から考察した。

本研究で中心にとりあげた愛知県について今後のコミュニティ通訳養成のための講座について考えた場合、ポルトガル語とスペイン語では、教授者、受講者にさまざまな面で違いが予想される。スペイン語についてはこの地域に専門的に学ぶことができる高等教育機関があるため、語学教育の専門的な知識と経験を有する教授者を確保することが可能であるが、ポルトガル語についてはそのような機関がなく、同レベルの教授者を求めるのは難しい。また、受講者についてもスペイン語講座の場合、大学等でスペイン語を専攻した日本人既習者が多く、一定レベルの既習者が受講生となるが、ポルトガル語の場合は自治体による語学講座や独学で学んだ日本人とネイティブスピーカーが多く占めるだろう。したがって、教授者、講座の内容等について、これを踏まえたコーディネートの必要であるといえる。2011年度、愛知県では、県内の大学と連携し、医療通訳派遣システムが試験的に実施される。本研究の成果をいかなるような形で、協力をしていきたい。

日本における多言語情報サービスの状況と外国におけるそれとを比較するため、日本と同様に90年代に移民が急増したスペインセビーリャ市における非スペイン語話者に対する言語支援のあり方について調査を実施した。セビーリャ市で活動しているNGOの非スペイン語話者に対するスペイン語教育支援プログラムでは、専門家（高等教育機関の教員等）のみ講師として登録することができ、教歴のないボランティア等はそれ以外の分野での支援を担当することになっている。教歴のないボランティアが講師の大半を占める日本の自治体の日本語教室とは大きく異なるといえる。

2011年、東日本大震災に関連して、情報弱者への情報保障が問題となったように、今後緊急時の対応に備えるために、多言語情報提供や言語支援に関する研究とそれを踏まえた実践が期待される。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Sala Caja, Lidia y Miki ITOIGAWA, “Retos y peculiaridades del profesor de español para fines específicos: el Curso de español para los servicios de salud de la Universidad Provincial de Aichi”, *Actas del XIX Congreso Internacional de ASELE (Cáceres)*, 査読無, 2009, 765-778

② 糸魚川美樹、「南米出身者の増加とポルトガル語・スペイン語教育 -愛知県を中心に-」『日本語学』5月増刊号、2009年、224-237

③ 糸魚川美樹、「(実践報告) 専門分野スペイン語教育における教授者の役割-愛知県立大学「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」の経験から-」、『ことばの世界』愛知県立大学高等言語教育研究所年報、査読無、2009年、41-51

[学会発表] (計5件)

① 糸魚川美樹「スペイン語における性と性別の結びつき」関西スペイン語学研究会第335回例会、2010年7月25日、愛知県立大学サテライトキャンパス

② ITOIGAWA, Miki, “Algunas actitudes lingüísticas de la sociedad japonesa frente a los residentes extranjeros”, Máster en Lengua Española: Investigación y Prácticas Profesionales del Departamento de Filología Española (招待講演), 2010年3月16日, Universidad Autónoma de Madrid (スペイン)

③ 糸魚川美樹「愛知県立大学『医療分野ポルトガル語・スペイン語講座』からみた専門分野スペイン語教育」、愛知県立大学第2回言語教育研究会、2008年10月28日、愛知県立大学

④ 糸魚川美樹「愛知県立大学『医療分野ポルトガル語・スペイン語講座』-専門分野スペイン語教育における教授者の役割」関西スペイン語学研究会315回例会、2008年10月25日、大阪産業大学梅田サテライトキャンパス

⑤ ITOIGAWA, Miki y Lidia Sala Caja, “Retos y peculiaridades del profesor de español para fines específicos: el Curso de español para los servicios de salud de la Universidad Provincial de Aichi”, XIX Congreso Internacional de ASELE, Universidad de Extremadura (スペイン), 2008年9月25日

[図書] (計1件)

糸魚川美樹、リディア・サラ 『医療系のためのスペイン語 (改訂版)』私家版、2010、88頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

糸魚川 美樹 (ITOIGAWA MIKI)  
愛知県立大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：10405152

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：